



## 〇実習報告会

こども学科の1年生が2週間の保育実習を済ませて帰ってきました。2日(金)にその報告会がありました。たくさんの感想が発表されました。書き切れませんのでその中から抜粋して次に紹介します。(抜粋してもこれだけあります。)実際の表現とは少し変えているところもあります。

初めてがたくさんありました。ほめることばがけによって子どもの積極性が促されるということを知りました。それぞれの子どもに保護者がいるんだということに気づきました。問題があるといわれている子どもにも対応できる力をつけたいです。初めは指示待ちだったり、特定の子どもとの対応になってしまいました。体験後に街中で保護者と出会うこともあり、先生という職業は日頃の生活についてもきちんとしなければならぬことを学びました。小さい子どもの発言を理解することに時間がかかってしまいました。自分でしたいという積極性を育てたいと思いました。期待感をもたせる声かけの大切さを学びました。初めての手遊びなどでは緊張もしましたが、一緒に動いてくれて自分も楽しめました。子どもたちから好かれる先生になりたいと思いました。一人ひとりに目が行き届くようになりたいです。日誌の記入についてもいねいに指導していただきました。読み聞かせでは子どもにとって見えやすい絵本の高さについても配慮しなければならないということに気づきました。命を守ることの重要性を実感しました。保護者との信頼関係も大切で、そういう力のある先生になりたいと思いました。子どもたちは周りの言動に大きく影響されるということを知りました。対応の仕方では一瞬で笑顔になれる場面も見ることができました。喧嘩になってもお互いの気持ちを知り合うことで、前よりよい関係になれるということが分かりました。自分の名前と呼ばれると笑顔になり、嬉しいんだということに気づいたので早く名前を覚えるようにしたいです。食事の場面でもことばがけが大切で、食べる楽しさを味わうことができることを学びました。次の実習では指示された目の前のことだけでなく、心の余裕をもって積極的に取り組んでいきたいです。自分の動きを見つめ、真似をしてくれたときに嬉しい気持ちになりました。名前をいっぱい覚えたいと思います。進んで子どもにかかわることを目標にして取り組みました。障害のある子どもへの対応や、歌についても大きき度合いや適切な速さなどについてたくさん学びました。発達のレベルの違いを感じました。先生ごとの様々な工夫を見ることができました。家庭環境にも応じた子どもへの対応も大切であることを学びました。保育は手助けだけではないということを知りました。月齢により発達の度合いが大変大きいことが分かりました。



1年生にとっては1回目の実習ということで、何もかもが初めての体験でした。2週間という短い期間でしたが、おそらく2か月くらいに感じたのではないかと想像します。今回、全員(18名)の発表を1時間ほど聞いていきましたが、このことによって自分自身の経験に加えて18倍の間接体験もできたはずで、ということは何と18で9か月分の実習ができたともいえるでしょう。

保育の現場の大変さも実感したことで、同時に嬉しさ・やりがいも感じたはずで、あらためて保育士という子どもの成長を見守ることのできる仕事の素晴らしさに気づいたことと思います。大きな収穫がありました。

さて、子どもたちの成長の大きさに気づいたという意見がたくさん出ましたが、私が報告会に参加して思ったことです。「あなたたちもこの2週間で大きく成長していますよ。」